

地質環境の長期安定性に関する研究では、日本の火山活動、地震・断層活動、隆起・侵食、気候・海水準変動などの自然現象の特徴及び活動や変動による影響等を明らかにし、地質環境が将来どのようなようになるかを予測する手法の開発を行います。

【平成 17 年度の業務実績】

日本国内を対象に、自然現象の特徴や履歴を明らかにするため、いくつかの場所を例とした研究を実施し、モデル※や調査手法の開発を行いました。火山や断層の活動に関する研究では、東北地方や中部地方などで現地調査を行いました。また、侵食や気候変動に関する研究では、東濃地域を例として、盆地や段丘の地下に残された地層や化石から、当時の気候を推定する手法の開発を行いました。

【平成 18 年度の業務計画】

平成 17 年度に引き続いていくつかの場所を例とした研究を行います。例えば、侵食や気候変動に関する研究では、東濃地域を例として現地調査を行い、古い時代の地形や気候を推定します。また、活断層に関する研究では、岐阜県北部の跡津川断層や阿寺断層を事例に過去の断層活動に伴って地層や地下水がどのように変化したかを推定するための調査を行います。



活断層の調査



気候変動に関する現地調査
(ボーリング調査)

※モデル：変化の様子を模式的にあらわしたもの

開かれた研究体制

国内外の研究機関からの研究員（客員研究員、産学連携協力研究員、リサーチフェロー（旧国際特別研究員））の受け入れや共同研究、東濃地震科学研究所との研究協力を進めています。また、他の機関から依頼のあった試料をペレットロン年代測定装置などにより分析しています。



海外研究機関との共同研究

地域社会との交流

地層科学研究はもとより、原子力全般に関する仕事の内容を知っていただくため、地域行事への参加やセミナーの開催などを行っています。また、瑞浪国際地科学交流館のミニギャラリーでは地域の方々の作品展示を行っています。



ミニギャラリーにおける作品展示

情報公開

瑞浪超深地層研究所管理棟内に設置しているインフォメーションルームで研究成果報告書などの研究成果を公開しています。さらに、ホームページなどを通じて研究内容、環境測定結果、施設の紹介などを行っています。



展示スペースにおける研究の紹介

【<http://www.jaea.go.jp/index.shtml>】